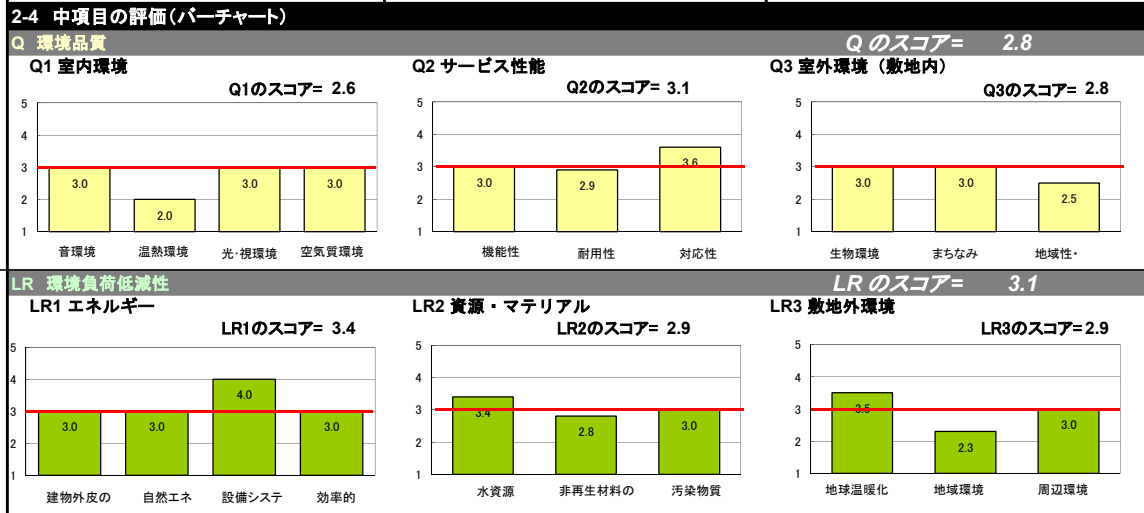
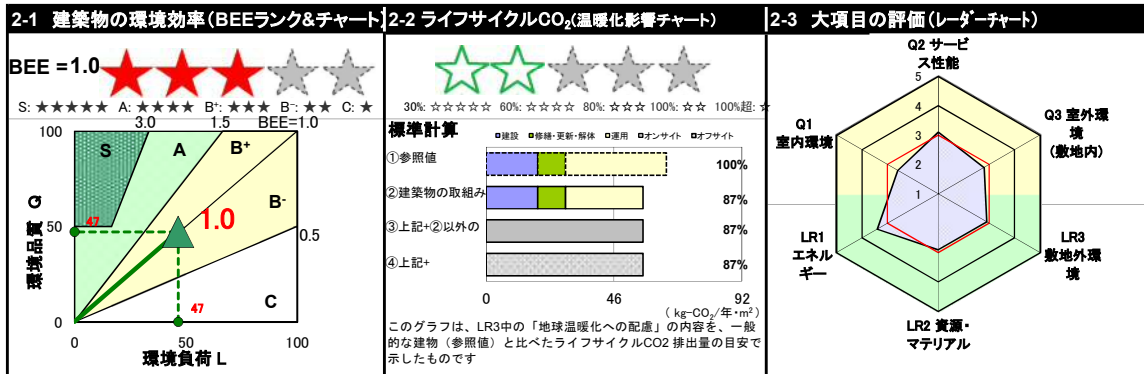


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社日陸中部物流センター新築	階数	地上4F
建設地	愛知県弥富市鍋田町六野5番1他5筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	20 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,100 時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2017年1月15日
敷地面積	4,406 m <sup>2</sup>	作成者	岡田 紀道
建築面積	2,937 m <sup>2</sup>	確認日	2017年1月15日
延床面積	7,885 m <sup>2</sup>	確認者	岡田 紀道



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p>				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"><b>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</b></td> <td style="text-align: center;">42.2 %</td> </tr> <tr> <td><b>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</b></td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>		<b>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</b>	42.2 %	<b>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</b>	0.0 %
<b>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</b>	42.2 %				
<b>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</b>	0.0 %				
<p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>					

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>									
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 騒音		3.0	0.15					3.0	
1.2 遮音		3.0	0.40					2.6	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00						
2 界壁遮音性能		-	-						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-						
1.3 吸音		3.0	0.20						
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御		2.0	0.35					2.0	
1 室温		3.0	0.50						
2 外皮性能		3.0	0.38						
3 ゾーン別制御性		3.0	0.25						
2.2 湿度制御		3.0	0.38						
2.3 空調方式		1.0	0.20						
		1.0	0.30						
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用		3.0	0.25					3.0	
1 昼光率		3.0	0.55						
2 方位別開口		-	-						
3 昼光利用設備		3.0	1.00						
3.2 グレア対策		-	-						
1 昼光制御		-	-						
3.3 照度		-	-						
3.4 照明制御		3.0	0.45						
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策		3.0	0.25					3.0	
1 化学汚染物質		4.0	0.50	F☆☆☆☆を使用					
		4.0	1.00						
4.2 換気		2.0	0.30						
1 換気量		3.0	0.50						
2 自然換気性能		-	-						
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50						
4.3 運用管理		2.0	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50						
2 喫煙の制御		3.0	0.50						
<b>Q2 サービス性能</b>									
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40					3.1	
1 広さ・収納性		3.0	0.40						
2 高度情報通信設備対応		-	-						
3 バリアフリー計画	独自	3.0	1.00						
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30						
1 広さ感・景観		3.0	0.33						
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33						
3 内装計画		3.0	0.33						
1.3 維持管理		3.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
2.1 耐震・免震		2.9	0.31					2.9	
1 耐震性		3.0	0.48						
2 免震・制振性能		3.0	0.80						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.20						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.33						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	②	4.0	0.09	クロス貼り20年					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23						
2.4 信頼性		2.6	0.19						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	②	3.0	0.20						
5 通信・情報設備		2.0	0.20						
<b>3 対応性・更新性</b>									
3.1 空間のゆとり		3.6	0.29					3.6	
1 階高のゆとり		4.2	0.31	階高3.9m以上					
2 空間の形状・自由さ		5.0	0.60						
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.40						
3.3 設備の更新性		4.0	0.31	積載荷重3900N/m2以上					
1 空調配管の更新性		3.0	0.38						
2 給排水管の更新性		3.0	0.17						
3 電気配線の更新性		3.0	0.11						
4 通信配線の更新性		3.0	0.11						
5 設備機器の更新性		3.0	0.22						
6 バックアップスペースの確保	②	3.0	0.22						

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
								<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		
1 生物環境の保全と創出	独自③			3.0	0.30					3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40					3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30					2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50					
				3.0	0.50					
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.05					3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27					3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.41					4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.77		4.0	1.00					
集合住宅の評価(3c)										
4 効率的運用				3.0	0.27					3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00					
4.1 モニタリング				3.0	0.50					
4.2 運用管理体制				3.0	0.50					
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
<b>1 水資源保護</b>										
1.1 節水			節水型便器を使用	3.4	0.15					3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減				2.8	0.63					2.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.07					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自			3.0	0.25					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.21					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		躯体と仕上げ材が容易に分別可能	-	-					
				4.0	0.25					
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.22					3.0
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32					
1 消火剤				3.0	0.68					
2 発泡剤(断熱材等)				-	-					
3 冷媒				3.0	0.50					
				3.0	0.50					
<b>LR3 敷地外環境</b>										
<b>1 地球温暖化への配慮</b>										
1 ライフサイクルCO2排出率は86%	①			3.5	0.33					3.5
<b>2 地域環境への配慮</b>										
2.1 大気汚染防止				2.3	0.33					2.3
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50					
1 雨水排水負荷低減	独自			2.5	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25					
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.33					3.0
1 騒音	独自			3.0	0.40					
2 振動	独自			3.0	0.33					
3 悪臭				3.0	0.33					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40					
1 風害の抑制				3.0	0.70					
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制				3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				3.0	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のつらねに漏れる光への対策				3.0	0.70					
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

株式会社日陸中部物流センター新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11	外構緑化:42.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社日陸中部物流セ:

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの高効率化を図り、エネルギー使用量を削減しています。
Q1 室内環境	・F☆☆☆☆建材を使用しています。
Q2 サービス性能	・倉庫の積載荷重3900N/m2以上としています。
Q3 室外環境(敷地内)	建物の高さを低くし、まちなみに配慮しています。
LR1 エネルギー	設備の高効率化をはかり、BEI値が基準値を下回っている。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能になっています(躯体+軽鉄+PB)。
LR3 敷地外環境	・ライフサイクルCO2排出率は86%となっています。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。